

**ALS・パーキンソン病患者に対する
ステージ別のチーム医療と呼吸リハビリテーション
～継続的に患者を支えるための基礎から家族支援まで～
講師：寄本 恵輔 先生**

日時： 平成30年7月22日(日)10:00～16:00
参加費： 10,000円(各種割引制度あり)

会場： 三宮コンベンションセンター
定員： 54名

以下に心当たりはありませんか

- ・神経難病の患者さんにストレッチと軽い運動ばかりやっている
- ・退院すれば自分は関係ないと思っている
- ・呼吸が苦しそうだったらとりあえず呼吸介助している
- ・何となく学生の時に習った呼吸介助をやっている
- ・呼吸の評価がよくわからない
- ・呼吸リハビリ＝スクイーミングと思っている
- ・COPDと神経難病の呼吸リハ同じ事をすればいいと思っている
- ・うまくいかない時には「進行性の難病だから…」と説明している

上記項目に多く該当しているが呼吸に問題を抱えている患者を一生診る事が無い、ALSは運動器だけ診ておけば良い、勉強しても別に給料が上がるわけでも無い、と思っている方はこれより先を読み進める価値はありません。

ALSの患者さんを担当しているセラピストは多くの不安を感じていませんか？

疾患について理解はしていても徐々に機能が低下していくところを間近に感じ、運動療法の「軽負荷」が実際にどの程度か分からない、呼吸の問題に対して上手く評価や治療が行えている自信がない、他の職種が何を行っているのか分からない等思ったことはないでしょうか。

また、ステージや症状の変化に環境設定や治療方針が追いつかず、後手後手な対応になってしまう事に罪悪感や恐怖を感じているのではないのでしょうか。これらの問題は在宅の現場では特に強く感じると思われます。

なぜなら、現在どのステージにいるのか明確に評価出来ていない為では無いでしょうか。

能力が低下していくに合わせて環境やサービスの変更も必要になりますが、それらは金銭的な問題や、重大な決断になることもあります。セラピストが「恐らくこのステージに到達下であろうから、この様な機器の導入や、この様なサービスの導入が必要だ」と思っても軽々しく発言できる事無かったり、他の職種に話しても「時期尚早ではないか」と思われてしまう事も有るでしょう。職種間の信念対立といった問題もありますが、皆さんならどの様に解決されますか。

この様な不安や問題を感じている原因は単に、知らないからです。

**ALS・パーキンソン病患者に対する
ステージ別のチーム医療と呼吸リハビリテーション
～継続的に患者を支えるための基礎から家族支援まで～**

ALSの生命予後を規定する最大の因子は呼吸障害とされていますが、呼吸リハビリを行う際、COPDの患者と同じ様な対応ではなくALSの呼吸障害に合わせた治療を行って行く必要があります。呼吸リハビリは高度な技術を持った理学療法士のみが行うものではなく、ALSは長期的、継続的な呼吸管理が必要となるため多くの役割を果たす患者や家族に教育し、患者・家族と一緒に呼吸理学療法を継続していくことが重要です。また、医療現場では医師やコメディカル、在宅の現場では家族や他の事業所と連携してALSの加速的な進行を抑制していく必要があります。

本講演では神経難病の病態の理解からステージ毎のアプローチ方法、リスク管理、チームアプローチ、家族指導など、病棟から在宅までをひとつひとつ座学と実技を交えて学習していきます。そのため、貴方が臨床で抱えている問題を解決するためのヒントを得られることと思います。

今回講演して頂く寄本恵輔先生を紹介致します。

急性期から在宅まで幅広い分野で活動され、脳神経外科急性期や神経内科領域の呼吸ケアにおいて第一人者として活躍されています。日本で最も多くALS患者をみている理学療法士であり、国立病院で初めて救命科に所属された理学療法士でもあります。

2006年に「医療」に掲載された原著論文がコメディカルとして初めて塩田賞を受賞、学会発表でも数多く受賞。講演活動も精力的に行っておられ、特に2010年に英国 聖クリストファーホスピスにて研修終了、早稲田大学大学院にて緩和医療学・臨床死生学過程卒業後はリハビリテーションにおける緩和ケアやQOLの新しい考え方について啓蒙活動をされています。

2011年より現職である国立精神・神経医療研究センター病院身体リハビリテーション部理学療法主任となられ、院内では、臨床業務に加え、呼吸ケアサポートチームや医療モデルのロボットスーツHALにかかわる主メンバーとして活動。院外活動として、日本神経難病リハ研究会や理学療法士協会関連の世話人、地域の包括的ケアの拡充活動に加え、中国やネパール等の呼吸ケアの普及に奔走され、国際的な活動をされています。

貴方はこれまでに何度か呼吸リハビリに関して勉強してきたことと思いますが、随分昔に学習した時点で知識が止まっているのでは無いかと思います。

これから、一から勉強し直す事は正しいことですが、多くの時間と、労力が必要です。書籍や論文で一通り学習して、臨床で新しい疑問が生まれ、それについて考察して、調べて、検証して、、、と非常に時間がかかってしまいます。患者さんは待つはくれません、出来るだけ時間を短縮する必要があります。

ここまで読み進めて頂いた方はもう気が付いているのではないのでしょうか。まずはその分野の先頭にいる先生の話聞くことで、最新の知見が得られることはもちろん、自分に不足している基礎的な知識も明確になり学習の効率は高まります。

また、今回講演して頂く寄本先生は東京の病院で勤務されていらっしゃいますので地勢的に近畿・中国地方での講演はこれまでにありません。この機会に参加出来ることは数少ないチャンスではないかと思えます。